

## コスタリカ内政・外交主要事項 (2020年6月)

2020年6月の当国内政・外交主要事項を以下のとおり報告申し上げます。

### 【要旨】

#### 内政

- 1 国会の歳入歳出管理委員会は、カルデラ港改修工事を巡ってのアルバラード大統領ら政府高官の汚職疑惑の調査開始を決定した。
- 2 チャベス財務大臣、マリン報道担当大臣及びサラサール科学技術通信大臣の辞任が発表された。

#### 外交

- 1 アルバラード大統領、WHOと特許権プール“COVID-19技術アクセスプール”の創設をリード。
- 2 ベントウーラ元外相は、健康等を理由に、ほぼ確定していたOAS代表大使職を辞退した。
- 3 中国・コスタリカ外交関係樹立13周年に際し、駐コスタリカ中国大使がエクストラ・ディアリオ紙へ寄稿。
- 4 ロドリゲス環境エネルギー大臣が、地球環境ファシリティ(GEF)議長に選出された。
- 5 新型コロナウイルス対策に関する、習主席との電話会談が行われた。
- 6 アラブ首長国連邦からの医療物資支援が行われた。

### 【各論】

#### I 内政

##### 1 カルデラ港改修工事を巡る贈収賄疑惑

(1) 5月28日、国会の歳入歳出管理委員会は、福音派で無所属の新共和国グループのジョナサン・プレンドラス議員によって提案された、アルバラード大統領、リベラ・コスタリカ太平洋港湾公社(Incop)総裁及びガルニエ官民連携担当大臣に対する調査を開始することを決定した。

(2) 右情報提供は、昨年12月に検察庁に対して行われている。情報の内容は、アルバラード大統領他2名が賄賂を受け取り、Incopが現在、同港の改修工事を請け負っているカルデラ港湾会社(Sociedad Portuaria Caldera, SPC)社との2026年までの契約を更に延長し、次期工事に関心を示していたアラブ首長国連邦の国営企業であるDubai Ports World社の提案を断るよう、SPC社に対して便宜を図ったというものである。なお、「D」社は改修工事に参入しないことを本年4月に表明している。

##### 2 3大臣の辞任と新大臣の就任

(1) チャベス財務大臣の辞任とビジェーガス新財務大臣の就任

ア チャベス大臣の交代の最大の理由は、アルバラード大統領が推進した各

自治体を財政改革法の対象から除外する法案に、政府の支出増を嫌う「チャ」大臣が反対したことである。同大臣は、本法案を巡っての大統領との意見の相違から更迭された。なお、会計検査院の試算では、自治体を対象外にすることで、最大900億コロン（約170億円）の支出増が見込まれる。「チャ」大臣は昨年11月に就任したばかりであった。

イ 後任には、コスタリカ保険公社（INS）最高責任者のビジェーガス氏が就任する。同氏は、「増税や新税の導入なしに、財政危機を乗り越えたい」と語った。

(2) マリン報道担当大臣の辞任とカストロ新報道担当大臣の就任

ア マリン大臣は、1歳の息子の世話をするために辞任すると述べた。

イ 後任には、ミゲル・ロドリゲス政権（キリスト教社会統一党）時代に報道官や大統領府大臣を歴任したカストロ氏が就任する。

(3) サラサル科学技術通信大臣の辞任とベガ新科学技術通信大臣の就任

ア サラサル大臣の辞任の理由は、国家テレコミュニケーション基金（Fonatel）の資金を債務の返還に充てるとした「ア」大統領の方針に同意しなかったためなどとされる。

イ 後任には、現科学技術通信次官のベガ氏が就任する。

## II **外交**

### 1 WHOと共同で特許プール創設をリード

5月29日、新型コロナウイルスに関わる製品に関する知的財産権、データ、知見、技術をプールし、これを「国際公共財」とする多国間の枠組みである「COVID-19技術アクセスプール」が、テドロス事務局長とアルバラード大統領の署名、アルゼンチンやオランダ等37か国の賛同によって発足した。

### 2 ベントゥーラ元外相のOAS大使辞退

(1) 3日、マヌエル・ベントゥーラ前外相が、米州機構（OAS）代表部大使就任を辞退したことが明らかになった。「ベ」前外相が外相職を辞任した際、政府は、同前大臣がOAS大使に就任することを発表していた。

(2) ソラーノ現外相は、「ベ」前外相と直接話した際に、高齢であることや健康不安等の個人的理由のため、大使職を辞退する旨聞いたとしており、「ソ」外相は、右意向を尊重すると伝えた。

### 3 中国・コスタリカ外交関係樹立13周年（湯恒（Tang Heng））大使寄稿（以下要旨）

(1) 6月1日は、中国とコスタリカが外交関係を樹立してから13周年を迎える。これまで両国は、連帯と協力によって世界に模範を示してきたことを誇らしく思う。

(2) 中国は、コスタリカにとって第二位の貿易相手国である。将来的に、より多くの質の高いコスタリカ産品が中国国民の元に届くと確信している。

(3) また、教育省が公表した「コスタリカ、バイリンガル国家を目指して

2040」プログラムに中国語が入っていることを喜ばしく思う（他に英語、仏語、独語、伊語、ポルトガル語）。

（４）両国は、新型コロナウイルス対策でも協力体制を築いてきた。多国間主義を標榜する中国及びコスタリカにとって、WHOによって採択されたコスタリカ政府主導の、自由なアクセス権プールに関するイニシアティブは賞賛に値する。

（５）昨今閉幕したWHO総会で習近平国家主席が発表した感染症対策の中には、２年間で総額２０億ドルの支援や新型コロナウイルス用の中国製ワクチンを公共財として提供することなどが含まれている

#### **４ ロドリゲス環境エネルギー大臣の地球環境ファシリティ（GEF）議長選出**

（１）カルロス・ロドリゲス環境エネルギー大臣は、２日、２０１２年から２期８年GEFの議長を務めた石井菜穂子氏の後任として、正式に選出され、８月に就任する。

（２）発展途上国から議長が選出されるのは初めてで、１０６名の候補者の中から選ばれた。GEFの本部はワシントンにあり、地球環境リオサミット９２を控えて創設された国際機関で、気候変動対策や生物多様性保護に関するプロジェクトに対して財政支援を行うことを主目的としている。

（３）アルバラード大統領は、コスタリカの環境分野における活動が認められた証左であり、名声を国際的にさらに高めるとして、「ロ」大臣の選出を祝福した。

#### **５ 習近平国家主席との電話会談**

（１）５日、アルバラード大統領は、習近平中国国家主席と電話会談を行い、ラテンアメリカにおける新型コロナウイルスの状況について意見交換を行った。その中で、習主席は、新型コロナウイルス対策に、中国が持っている物資及び知見をコスタリカといつでも共有する準備は出来ている旨述べた。

（２）また、習主席は、コスタリカは中国にとって信頼できるパートナーであり、外交関係を樹立してから、多方面で成果を出しており、遅滞なく二国間関係は発展している旨述べた。

（３）アルバラード大統領は、両国が外交関係を樹立して以来、友好関係を深め、互恵的關係も広がりを見せている旨述べた。

（４）今回の電話会談は、新型コロナウイルス対策のための国際協力を推進するアルバラード大統領の呼び掛けに習主席が応じた形。４日には、コスタリカと中国側専門家との間で、テレビ会議による意見交換が行われた。

#### **６ アラブ首長国連邦からの医療物資支援**

１２日、アラブ首長国連邦（UAE）から検査キット２万５千個を含め、医療物資８．５トン、総額およそ１００万ドル相当の物資がエティハド航空のチャーター便によってサンホセ空港に到着した。

## 7 ニカラグア国境の開放について

(1) 23日、ソラーノ外相は、ニカラグアの人権団体 (la Asociacion Nicaraguense Pro Derechos Humanos) から提案された、「人道回廊」案を非現実的であるとして受け入れない方針を示した。同案は、ニカラグア人の新型コロナウイルス感染者をコスタリカ政府が特別に受け入れ、国内で治療を施すというものであった。

(2) 同外相によると、外国人新型コロナウイルス感染者を国内に受け入れたのは、ハイチで勤務していた国連職員 (国籍不明) のケースだけである。当国は、医療制度が整っていないハイチでは十分な治療を受けられないこと等を考慮し、国連と取極めを行い、受け入れを例外的に認めたとしている。